



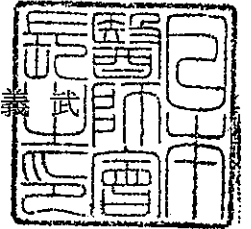
日医発第783号(地I237)

平成27年11月19日

都道府県医師会長 殿

日本医師会長

横倉



向精神薬の適正流通及び管理に関する監視指導の強化について

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて今般、厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課長より各都道府県衛生主管部(局)長等宛に標記の通知が発出されるとともに、本会に対しても協力の依頼がありました。

本通知は、医療機関を開設する医師が大量の向精神薬を営利の目的で不正に譲り渡す事件が発生したことを受け、各地方厚生局麻薬取締部や卸売販売業者等との連携をより一層密にし、向精神薬の適正な流通及び管理の徹底を図ることについて、協力を依頼するものであります。また、医師会をはじめとした関係団体との協力や連携についても依頼しておりますことにご留意いただければと存じます。

つきましては、貴会におかれましても本件に関してご了知いただきますとともに、不正取引の防止に向けた関係機関との協力及び貴会管下関係機関等への周知方につき、ご高配賜りますようよろしくお願い申し上げます。

薬生監麻発 1110 第 5 号  
平成 27 年 11 月 10 日

公益社団法人 日本医師会 会長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局  
監視指導・麻薬対策課



向精神薬の適正流通及び管理に関する監視指導の強化について

標記については、別添のとおり日本製薬団体連合会会長、日本医薬品卸売業連合会会長及び各都道府県衛生主管部（局）長あて通知いたしましたので、内容を御了知の上、貴会会員各位等への周知をお願いいたしますとともに、各地方厚生局麻薬取締部及び各都道府県とも連携して、向精神薬の適切な処方及び不正流通防止に御協力賜りますようお願いいたします。



薬生監麻発 1110 第 3 号  
平成 27 年 11 月 10 日

各都道府県衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局  
監視指導・麻薬対策課長  
(公印省略)

### 向精神薬の適正流通及び管理に関する監視指導の強化について

今般東京都内の診療所の医師が、大量の向精神薬を営利の目的で不正に譲り渡す事件が発生し、関東信越厚生局麻薬取締部が同人を麻薬及び向精神薬取締法違反で逮捕しました。本件においては、当該医師が向精神薬を取り扱う卸売業者から大量の向精神薬を購入していたにもかかわらず、医薬品製造販売業者や向精神薬を取り扱う卸売業者等による適切な対応が取られず、結果的に大量の向精神薬が横流しされる事態となりました。つきましては、下記事項に留意して、各地方厚生局麻薬取締部、貴管内関係団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会等）、向精神薬を取り扱う卸売業者等との連携をより一層密にして向精神薬の適正な流通及び管理の徹底を図るとともに、向精神薬の不正流通の疑いを認知した場合には厳正に対処されるようお願いいたします。

### 記

#### 留意事項

1. 向精神薬不正流通防止のために、貴管内医薬品製造販売業者、向精神薬を取り扱う卸売業者等との連携強化を図り、向精神薬の不正取引に関係しているおそれがある場合には速やかに情報提供するよう指導すること。併せて、関係団体の協力を得て、不正取引の防止に取り組むこと。
2. 管轄麻薬取締部と連携して、向精神薬を取り扱う卸売業者への立入検査を計画的に実施し、向精神薬の販売先、その数量等について確認するなどし、向精神薬の流通実態の把握に努めること。
3. ある時期を機に向精神薬の購入量が不自然に増加した病院、診療所、薬局等に対し、監視指導を強化すること。
4. 施設の規模と合致しない量の向精神薬又は標榜診療科目と合致しない向精神薬を購入している病院、診療所等に対し、監視指導を強化すること。

2015.11.11 12:00

## 【衝撃事件の核心】闇売買で広がるやせ薬マジンドール 依存性高く副作用も… 自由診療の穴くぐり 安易な処方横行

飲むだけで効果がある究極の「やせ薬」。多くの人がそんな期待をよせる薬がある。規制医薬品「マジンドール（商品名・サノレックス）」だ。この薬を不正に横流ししたとして、東京・六本木の開業医の男が逮捕された。薬はそもそも重度の肥満患者のための治療薬で依存性もあるが、実際には医師の裁量で簡単に処方できる。やせたいという現代人の欲望に乘じ、「夢の薬」は闇で売買されていた。

初診料なし、1錠350円

「サノレックスは最安値ですね」「サノレックスの口コミで知りました」。

実際に書き込んだのが誰かは不明だが、逮捕された医師が経営していた六本木の医院「アーバンライフクリニック」のサイト。のどから手が出るほど「やせ薬」がほしい客の声らしき文言が並んでいた。

サノレックスを横流ししていたとして、医師が麻薬取締法違反容疑で関東信越厚生局麻薬取締部に逮捕されたのは10月のことだ。

逮捕容疑は7月、マジンドール1万8千錠を中国人ら3人に約440万円で不正に販売したとしている。麻薬取締部によると、男は昨年から大量のマジンドールを仕入れ、中国人らに販売していた。中国人らも転売目的で購入していたとみられる。男は麻薬取締部の調べに対し、「金が欲しかった」と供述した。

男は、初診料なしで1錠350円で販売していたようだ。

依存性注意…これまでも不正販売

《警告 1.本剤の主要な薬理学的特性はアンフェタミン類と類似しており…（略）…依存性について留意すること》

日本のサノレックスの添付文書には、赤字でこんな警告文が記されている。

厚生労働省になどよると、マジンドールは重度の肥満患者の食事療養や運動療法の補助薬として認可されている医薬品。成分が中枢神経に働きかけて満腹感をもたらし、摂取エネルギーの吸収を妨げるうえ、エネルギー消費を高めてくれる。

一方、覚醒剤と似た特徴があり、「飲んでいないとなにか不安」といった精神的な依存性が高い。このため麻薬取締法で向精神薬に指定されており、医師の処方がないと入手できない。医師は、患者の施用目的以外で譲渡することはできないことになっている。

マジンドールの不正販売をめぐっては、平成20年にも診療所やエステ店を全国展開する医療法人が大阪地検公安部に摘発される事件があった。医師免許のないサロン店長にサノレックスを販売させていたという。

月内に50キロ切る…安易な服用相次ぐ

そもそもマジンドールは高度肥満の治療に使われることが前提で、普通体形の人に投与するためのものではない。このため「保険診療」が認められるのは、BMI35以上の高度肥満患者だけなのだ。

ところがネット上には「150センチ42キロスタート」「今年中に50キロを切るのが目標です!」など、およそ高度肥満患者とは思えない利用者の書き込みが並んでいる。保険はきかなくても医師の判断で処方される「自由診療」が広がっている実態が伺える。関係者によると、内科や美容外科で安易に処方されている実態があるという。

麻薬取締部の担当者はマジンドールについて、「覚醒剤の代替物として利用する人は少なく、純粋にダイエットのためほしがる人が多い」とみる。そのうえで、「医師は基本的には患者の健康状態をみて処方の可否を決めるべきだが、患者が求めれば明確な制限はなく処方できてしまうのが実情」と指摘。自由診療が悪質な錬金術になってしまうかはひとえに医師のモラル次第のようだ。

ネットの書き込みには「3日目でひどい鬱症状」「倦怠感、吐き気に襲われダウン」「健康的とはいえません」といったものもあった。

薬物に詳しい小森栄弁護士は「自由診療の名の下で頻繁に向精神薬を処方している医師が、どこまで患者のリスクを真剣に検討しているかは未知数」と指摘。「向精神薬は健康に一定のリスクを伴う。向精神薬と自由診療の問題は医学界で検討を進めるべきだ」と話している。



アーバンライフクリニックのホームページ。「患者様の希望に添った治療を行います」と書いてある